

2010医療・介護連携シンポジウム

「口から食べたい」を支える口腔ケアと嚥下リハ

～病院・施設・在宅・デイで出来ることからチャレンジしよう～

とき 8月22日(日) 午後1時00分～5時00分(休憩あり)

会場 名鉄トヤマホテル 4F

参加対象 医療・介護を担う各職種

参加費 無料

富山地铁ゴールデンボウル駐車場、河口ビル駐車場のみ5時間分無料となります。

「咀嚼・嚥下・吸収を一連のシステムとして認識することの意義」

講師 山田 好秋 先生(新潟大学副学長)

座長 鏡森 定信 先生(富山大学名誉教授)

在宅医師の立場

小川 滋彦 氏(金沢・在宅NST研究会)

在宅歯科医師の立場

小林 岳志 氏(富山市・小林歯科医院)

訪問看護師の立場

岩原 裕子 氏(砺波市訪問看護ステーション)

歯科衛生士の立場

坂口 奈美子 氏(済生会富山病院・摂食嚥下サポートチーム)

言語聴覚士の立場

亀谷 浩史 氏(富山協立病院・リハビリテーション科)

講演

シンポジウム

国民から切望されている 摂食嚥下障害への取り組み

富山大学名誉教授 鏡森 定信



私の父は気管挿管で一月余りの中心静脈栄養の後逝した。母は誤嚥性肺炎を何回か繰り返しそのたびに

回復したが、嚥下できなくなり経静脈や経管栄養を経て胃ろうを試みたが、ヘルニアで胃が胸腔に挙上して手術の適応にならず、輸液下で一月余りで逝った。両親のケアにかかわっている間に、何人かの知人から、入院または入所して

がん末期、余命を告知され麻薬を使いながらも、四カ月後に控えた孫息子の結婚式に出席したい、それまで皆で過ごしたいと、緩和ケア病棟から退院されたAさん。家族の気持ちもぶれることなく日々を大切にされてきた。病状が悪化し美味しく食べることが難しくなった。Aさんには「それでも食べたい」気持ちがあつた。その気持ちをなんとかしたくて、健康センターの歯科衛生士に相談し、歯科衛生士が歯科医師に相談して訪問歯科診療となった。

美味しく食べられることは命の質を輝かせること。義歯の不具合は、数回の訪問診療で上手く調整でき、大好物のお肉を食べた翌日に「うまかった」と言われた。満足したような納得できたような表情と、傍にいる妻がうれしそうに「またあげるちゃ」と微笑んでい

その進歩に取り組みされているのが現状のようである。この分野での新しい技術の進歩とそれを支える人材ならびに制度、さらにはその普及を高齢期ケアの各分野の専門職の連携した取り組みが国民から切望されている。

終末期こそあきらめずに 食べることにへの支援を

砺波市訪問看護ステーション 岩原 裕子

「在宅医療で進展する多職種連携の輪に歯科医師も加わろう」

第1回(2010～11年度) 保団連代議員会で斉藤副会長が発言



「富山協会の取り組みを学び広げる活動を進めたい、8月のシンポジウムには私も参加させていただく」(執行部答弁)

六月二十七日、東京麹町の都市センターホテルで保団連第一回代議員会が開催され、富山協会からは斉藤副会長と岡宗理事が参加しました。当日は各協会選出の代議員一二名をはじめ、保団連役員、事務局員ら計二九一人の参加で、保団連の今後の活動方針などに関する討議と議案採決が行われました。活動方針に関する討議で斉藤副会長が「在宅医療で進展する多職種連携の輪に

二年間の絶食状態から 経口摂取に至った症例を経験

富山協立病院・言語聴覚士 亀谷 浩史

言語聴覚士(以下ST)がいる病院では、嚥下リハといえばSTという位置づけがここ数年で定着しつつある。一方、地域ではどうなのか。STによる介護保険下での訪問リハが行えるようになったのは四年。県内でもわずかなところがあるが、STによる訪問での嚥下リハが行われている。私が訪問リハに携わるようになって三年、適切な対応がなされ

六月二十七日、東京麹町の都市センターホテルで保団連第一回代議員会が開催され、富山協会からは斉藤副会長と岡宗理事が参加しました。当日は各協会選出の代議員一二名をはじめ、保団連役員、事務局員ら計二九一人の参加で、保団連の今後の活動方針などに関する討議と議案採決が行われました。活動方針に関する討議で斉藤副会長が「在宅医療で進展する多職種連携の輪に

富山協会の活動に敬意 斉藤副会長の発言に対して保団連の賀来進理事(歯科)は、「富山の活動に敬意を表する」「富山の活動を学び広げる活動を進めたい」「八月のシンポジウムにも参加させていただく」などと答弁し、歯科分野の活動強化を表明しています。富山協会の活動に敬意